

ろんだん 佐賀



池松 英治さん

ひよ子こども園かみみね園長

いけまつ・ひではる 1969年福岡県久留米市生まれ。佐賀大教育学部卒。クオリティゼミナール塾長・ひよ子こども園かみみね園長。2025年から同こども園グループ4園の統括園長。幼児から大学受験生まで個々の成長に合わせて教育する。佐賀市。

毎朝、窓を開け、トイレの掃除をしてから早番の先生を迎えています。そしてテラスを掃除しながら登園してくる子どもたちと保護者の方々にあいさつをします。仕事をしながら子育てをされている保護者の皆さまは、余裕を失いそうになる朝もあると思います。そんなとき、園の長である私が「大変なこともあると思いますが、頑張ってくださいね」という思いを込め、あいさつをすることで、少しでも心が和らいだら、その一心で続けてきました。毎日、顔を合わせていると自然と距離は縮まります。先生方に直接向けられていたクレームもなくなり、今では「相談」という形で保護者の方々が園長室に気軽にきてくださるようになりました。

前回、子どもや職員が主

あいさつと園長室

体的になったことを紹介しましたが、現在のひよ子こども園では、保護者の皆さまも主体的に関わってくださいます。

「花壇に花を植えてもいいですか」と声をかけてくださり、お父さまの趣味の多肉植物が並びました。会社を営む方は、珍しい重機

静かに芽吹く保護者の主体性

だくようになったのです。当初、園庭の排水が正常に機能しておらず、雨が降るたびに水がたまり、私はカップを着て排水作業を行いました。登園のときに靴がぬれないように。まず自分が動くこと、その積み重ねの先に、人の主体性は静かに芽吹いていくと信じて

います。制度変更の一次情報を一かに早く活用するかが大切です。制度運用について毎月指導を仰いできたのが、「鳳鳴乃里幼稚園」の松永茂樹園長先生です。松永先生は、認定こども園制度の施行前に全国で実施されたモデル事業に佐賀県から選出され

なる」と心に誓いました。現在では、職員がアルバイト形式の兼業として異なる法人に応援に行くという、人手不足に悩む園を支えるアライアンス（提携）関係も築いています。左官さんや大工さんの雇用は高齢者雇用制度を、各クラスの保育補助は雇上

に触れる「働く車シリーズ」のイベントを開催してくだ

いました。

た、この分野の先駆者です。

事業制度を活用したもので

さいました。トライアスロンの国際大会に出場されたお母さまは、その体験を子どもたちに語ってくださいり、その様子がテレビ放送されました。

現在では、左官さんや大工さんを雇用し、園庭づくりを共に進めています。金属遊具を廃した園庭は美しく整えられ、自然に溶け込む遊具が一つひとつ手作りされています。

かつて当園が配置基準をどうしても満たせなくなつた時、松永先生は、ご自身の園の加算が減額されるにもかかわらず、職員の同意を得た上で休職扱いとし、1カ月間当園へ勤務地を變更して助けてくださいました。その姿勢に、私は「いつか恩返しができるように

きたこと」です。松永先生からの助言があったからこそ短期間に実現できたこと

いつの間にか、「ひよ子に何か貢献したい」という声を保護者の方々からいた

資金による事業であり、国の制度のもとで運営されて

た。その姿勢に、私は「いつか恩返しができるように

きたこと」です。

